

行政評価シート【分野別施策】

分野別施策 4 -

交通の利便性・快適性を高める

目指す姿

交通インフラ¹が充実するとともに、どこへ行くにも円滑で快適な移動が実現し、買い物をする人や友達と会う人など、それぞれが不便を感じることなく目的地までたどり着けています。

1 道路や路線バスなど交通に関連した産業や生活の基盤として整備される施設のこと。

成果指標の達成状況

指標名	実績値					目標値
	計画策定時	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2027年度
自動運転バスの運行路線数【累計】	-	0 路線				1 路線
幹線道路 ¹ における交差点や歩道の整備箇所数【累計】	-	2 箇所				2 箇所
平塚駅 3 km 圏の自転車ネットワーク整備率	49%	66%				100%

1 国道や県道に接続する市民の生活上重要な道路や、地域住民の生活上特に重要な道路のこと。

施策の推進に向けた主な取組の「成果」

- ・バス停待合環境では、バス待ちスポットを 3 箇所（吉沢公民館、城島公民館、保健センター）開設しました。サイクル&バスライド駐輪施設では、保健センター敷地内への整備について、施設管理者と調整を図り、準備を進めました。
- ・自動運転バスの実証実験では、路上駐停車車両の回避を自動運転で行いました。また、一般試乗を実施し、約 1,100 人が自動運転バスを体験しました。
- ・市内タクシー事業者について、市の補助を活用して導入された 4 台を含む、計 13 台のユニバーサルデザインタクシーが導入されました。
- ・幹線道路について、幹道 20 号浅間町南原線の歩道設置工事を完了したほか、幹道 22 号真土金目線の歩道設置に向けた建物調査を行いました。
- ・幹道 27 号八幡神社土屋線など 4 路線（総延長 4.3 km）に矢羽根表示を行い、自転車走行環境の向上を図りました。

施策を推進する上での「課題（・）」と、課題解決を図るための「取組方針（ ）」

- ・バス停の待合環境や駐輪場の整備の向上が望まれており、公共交通を利用しやすい環境を整える必要があります。
バス停の待合環境やサイクル&バスライドの整備により、更なる交通結節点の強化・利用促進をします。
- ・主に郊外部で交通空白地域や交通不便地域があり、加えて、バス運行事業者の運転士不足が深刻化しているため、公共交通の維持が必要です。
自動運転バスのレベル4運行（特定条件下における完全自動運転）に向けて、実証実験により知見を深めるとともに、運行に対する市民の理解と機運を高めていきます。
- ・タクシーを利用した移動の利便性や安全性を向上させるため、国が定める基本方針に基づき、計画的なユニバーサルデザインタクシーの導入を図る必要があります。
国の補助制度を活用し、計画的に導入を進めるようタクシー事業者と協議します。また、リース契約車両にも導入支援ができるよう、補助要綱の改正に向けて検討します。
- ・交通集中による混雑が発生しており、交通の円滑化と歩行者の安全を確保する必要があります。
幹線道路の交差点や歩道などを整備するため、計画的に事業を推進します。
- ・平塚市では自転車の利用が多く、自転車の安全な通行空間とその連続性を確保する必要があります。
整備の必要性が高い通勤、通学、買物等の平塚駅から約3km圏域の日常のネットワークを中心に整備を進めます。

関連事業

路線バス利用促進事業、路線バス運行維持支援事業、幹線道路整備事業、タクシー利用促進事業、自転車通行帯整備事業

決算額

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
事業費（千円）	161,023			